

詩の朗読 (約30分) 朗読:横田 栄司

— 休憩 (20分) — Intermission

オルフ:カルミナ・ブラーナ (約65分)

Carl Orff: Carmina Burana

世界の支配者なる運命の女神 Fortuna Imperatrix Mundi

1 おお 運命の女神よ O Fortuna / 2 運命の女神に与えられた悲嘆 Fortune plango vulnere

第1部:初春に Primo Vere

3 春の喜ばしい面差しが Veris leta facies / 4 太陽は万物を治める Omnia sol temperat
5 ほら 嬉しい Ecce gratum

牧場で Uf dem anger

6 踊り Tanz / 7 森は花咲き Floret silva
8 小間物屋さん 頬紅をくださいな Chramer, gip die varwe mir
9 円舞曲 Reie / 10 たとえ全世界が自分のものでも Were diu werlt alle min

第2部:居酒屋で In Taberna

11 胸のうちは 燃える Estuans interius / 12 昔 私は湖に住んでいた Olim lacus colueram
13 俺さまは 大修道院長だ Ego sum abbas / 14 俺が 居酒屋にいる時にや In taberna quando sumus

第3部:愛の誘い Cour d'amours

15 愛の神は あらゆる所を飛び回る Amor volat undique / 16 昼も夜も 何もかもが Dies, nox et omnia
17 娘が立っていた Stetit puella / 18 私の胸は Circa mea pectora
19 もし若者が 娘と一緒に Si puer cum puellula / 20 来て 来て さあ Veni, veni, venias
21 天秤に In trutina / 22 今こそ 喜びの季節 Tempus est iocundum / 23 愛しい方 Dulcissime

ブランツィフロールとヘレナ Blanziflor et Helena

24 ああ 最高に美しいひと Ave formosissima

世界の支配者なる運命の女神 Fortuna Imperatrix Mundi

25 おお 運命の女神よ O Fortuna

指揮・芸術監督:佐渡 裕 Yutaka Sado, Conductor & Artistic Director

ソプラノ:田村 麻子 Asako Tamura, Soprano

テノール:彌勒 忠史 Tadashi Miroku, Tenor

バリトン:キュウ・ウォン・ハン Kyu Won Han, Baritone

朗読:横田 栄司 Eiji Yokota, Reading

合唱:神戸市混声合唱団 Kobe City Philharmonic Chorus

:オープニング記念第9合唱団 Opening Beethoven 9th Commemorative Chorus

児童合唱:宝塚少年少女合唱団 The little singers of TAKARAZUKA

管弦楽:兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

2013 4/5(金)・6(土)・7(日) 3:00PM開演
兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター ※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

3分ですぐわかる 今回の聴きどころ

厳格だけが修道院じゃない!?こんなに楽しい中世ドイツの音楽絵巻

時は19世紀の初頭、南ドイツにあるボイレン修道院で貴重な書籍(写本)が発見されます。解読するとそれは11~13世紀、ヨーロッパでは中世と呼ばれる時期が成熟した頃(日本では平安時代の中・後期から鎌倉時代にかけて)に書かれたと思われる詩・歌・エッセイ風の文章などなど。その内容はといいますと厳格な教義や神からのメッセージ……ばかりではなく、なんとラヴソングをはじめ酒・性・反権力ほか、ハメを外したエンタテインメントなものが山積みでした。これらをもとに20世紀ドイツの作曲家オルフが、約1時間のカンタータとしてまとめたのが「カルミナ・ブラーナ」(ボイレンの歌)。今回は皆様を、中世のドイツにお連れいたします。

ステージ上のすべてが「見どころ」となる大編成、皆様も輪の中に!

世界各地で取り上げられ、またCD録音も頻繁に行われるなど、クラシック音楽界ではちょっとしたヒット作になっているこの作品。本日のように詩の朗読も交えて、聴き手を作品の世界へと近づけてくれる試みは珍しく、その誘いに乗らない手はないでしょう。ピアノや多彩な打楽器も含むオーケストラと合唱が中心となり、3人の声楽ソリストもいろいろなキャラクターとなって大活躍します。そこには音楽による中世絵巻を1シーンごとにめくっていくような楽しみがあり、聴き手それぞれが(歌わずとも演奏せずとも)輪の中に加わるような感触を味わっていただけるはず。もちろん各場面が生き生きと描かれるのは、マエストロ佐渡の手腕あってこそです。

オヤマダアツシ(音楽ライター)

Memo

